

「民間ユネスコ運動の日」に寄せて

ユネスコ運動が始まって75年、この間、幸い日本が直接かかわる戦争こそありませんでしたが、私たちの社会が持続不可能になるような出来事がいろいろ起こっています。千年に一度とも言われた大震災から立ち直ろうとするときに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起こり、このコロナ禍がようやく収束に向かうかもしれないというときに、ロシアによる不合理なウクライナ侵攻がはじまってしまいました。これらの災難の一端は、私たち人類の浅はかな行為から生まれており、世界はそのことに気づいてSDGsなどの努力をしています。このようなとき、「民間ユネスコ運動の日」の原点を思い起こすことが大切でしょう。

私たち仙台ユネスコ協会は、このウクライナ侵攻に対するUNESCO本部や日本ユネスコ協会連盟の声明を支持し、世界の人びととともにウクライナの平和、世界の平和のために、「ウクライナ危機に関する声明」を2022年3月1日に出し、ウクライナを支援するための募金活動を行いました。この戦争が始まって以来、強く感じることは、戦争が一旦始まってしまうと、それを止めることは難しく、理不尽な指導者が出ないため、教育や国際理解を通じて戦争が始まらない社会の環境作りこそが大事であり、民間ユネスコ運動の意味もそこにあるように思います。

世界は平和を希求するために、第二次世界大戦の反省の上に、多くの人の心を動かすユネスコ憲章をつくりました。私たちは今、改めて「心に平和の砦を築く」というユネスコ憲章の精神を再確認して活動しなければなりません。人類の歴史を通じて、世界の国家間、民族間で風習と生活を知らないことが、疑惑と不信を生じさせ、しばしば戦争となりました。プロイセンの博物学者兼探検家であるアレクサンダー・フォン・フンボルトの「最も危険な世界観は、世界を見たことのない者の世界観である。」という言葉が思いだされます。

仙台に住む私たちの先人は敗戦直後の食糧さえままならないときに、平和の大切さに気づき、ユネスコ憲章の理念に賛同して、世界で最初に民間ユネスコ運動を起こしました。私たちこの先人の火を絶やすことなく、フォン・フンボルトから学ぶまでもなく、人の心の中に平和の砦を築くために民間レベルでの教育、科学、文化、文化芸術での国際交流を深め、しっかり世界を知り、連帯することに努めます。そのためにも、戦争に勝者はいないことを再確認し、SDGs（持続開発目標）の達成に向けて努力し、ESD（持続可能な開発のための教育）を通じて人類の持続可能な社会の創り手を育てなければなりません。私たちは、持続不可能な困難な事態をやり過ごそうとする傍観者ではなく、民間ユネスコ運動を活性化するために行動します。

2022年7月19日

公益社団法人仙台ユネスコ協会
会長 見上 一幸